



はちのへはっけん

八戸発見ブック



せかい ため

世界の宝!!

はちのへさんしゃたいさい

八戸三社大祭

さんびやくねん なが あいだ はちのへ ひと たいせつ まも
 およ三百年もの長い間、八戸の人たちが大切に守り、
 はちのへさんしゃたいさい へいせい
 うけついできた八戸三社大祭が、平成28年12月1日、
 せかい まも たいせつ たから むけい ぶんか
 世界のみんで守るべき大切な宝(ユネスコ無形文化
 いさん
 遺産)として、みとめられました。

せかい ため
 世界の宝として
 みとめられたことを
 しょうめいする

ユネスコ認定書
 (レプリカ)



祝 八戸三社大祭の山車行事
 ユネスコ無形文化遺産登録決定



1 はちのへさんしゃたいさい 八戸三社大祭

はちのへさんしゃたいさい
まい年7月31日から8月4日に行われている八戸三社大祭をみなさんは見たことがありますか。

おがみじんじや ちようじゃさんしん ら じんじや しんめいぐう じんじや
三社とは、霽神社、長者山新羅神社、神明宮の三つの神社のことで、この三社合同のお祭りを八戸三社大祭といいます。

はちのへさんしゃたいさい じんじやぎょうれつ だし
八戸三社大祭では、三社の神社行列と27台の山車が、市内をゆっくりと歩きます。お祭りに参加する人や見る人も多く、八戸でもっとも大きなお祭りです。

はちのへさんしゃたいさい ぎょうれつ とお 八戸三社大祭の行列の通り道



さんしゃたいさい ばしょ
三社大祭が行われる場所
は、お店や会社、市役所が
あつ はちのへ ちゆうしんち
集まる八戸の中心地です。

ぜん やさい ぜん
7月31日の前夜祭では、全
ぶ だし あつ
部の山車が集まって、にぎやか



ぜんやさい はやし おおだいに こだいこ ふえ
前夜祭でのお囃子(太太鼓、小太鼓、笛)

はやし えんそう
にお囃子が演奏されます。

とお
8月1日はお通りといって、
おがみじんじや あた ちようじゃさんしん ら
霽神社の辺りから長者山新羅
じんじや ぎょうれつ だし
神社へ、三社の行列と山車が
ゆっくりと歩きます。



とお だし ぎょうれつ せいざんかいだ しぐみ
お通りでの山車行列(青山会山車組)

なかび
8月2日は中日といいます。
ちようじゃさんしん ら じんじゃ
午後には長者山新羅神社で
き ば だきゅう の
騎馬打毬という、馬に乗りな
まり な
がら毬をゴールに投げ入れ
きようぎ
る競技が行われます。これは
むかし ぶ し
昔、武士が行っていたスポーツ
ところ ぜんこく
で、今も行っている所は全国で
しよ
三か所だけです。夜は明かりが灯された
だし
山車が八戸の中心地をゆっくりと歩きます。



き ば だきゅう
騎馬打毬

かえ
8月3日はお還りといって、長者山新羅神社の近くからおがみじんじゃ霽神社
む ぎようれつ だし
へ向かって、三社の行列と山車がゆっくりと歩きます。



あ とも だし
明かりが灯された山車

こう や さい
8月4日の後夜祭では、
すべ だし あつ
全ての山車が集まって、お
はやし えんそう
囃子を演奏します。
むかし とお なかび
昔はお通りと中日、お還
りかえの三日間だけで、前夜
さい こう や さい ぐわ
祭と後夜祭は後から加わり
ました。

よる だし
夜の山車
は、明かりが
ついて、とても
きれいです。



2 2 昔の八戸三社大祭

さんしゃたいさい
三社大祭はとても長いれきしがあります。今からおよそ300年
むかし わる つづ
前の昔に、天氣の悪い日が続いたため、天氣がよくなることと
さくもつ
米などの作物がたくさんとれることをねがって始まりました。

ほうりようしゃ
はじめは、法霊社（今
おがみじんじゃ まつ
の霽神社）だけのお祭り
だし
で、山車はなく、おみこ
みじか ぎようれつ
しを中心とした短い行列
でした。しばらくたってか
かみさま よろこ
ら、神様を喜ばせるため
だし ぎようれつ ぐわ
に山車も行列に加わるよ
うになりました。



おがみじんじゃ
霽神社



だし
今ものこっている、およそ200年前の山車

だし
およそ200年前の山車は、
今よりもずっと小さく、毎年同
じ人形をのせたものでした。
人形は遠くの大きな町から買
ってきたものでした。

むかし だし
昔の山車は
今よりも小さい
けど、りっぱだね。



およそ160年前の昔に、長者山新羅神社と神明宮もお祭りに
 加わり、三社のお祭りになりました。そのころから、今のよう
 に、町内の人々が集まって、毎年作り変える山車になりました。岩や波、
 たて物と人形を組み合わせて、歌舞伎という日本で昔から行わ
 れてきた劇や、昔話の一場面をあらわしました。その山車を作る
 人たちの集まりのことを、山車組といいます。



ちようじゃさんしんらじんじゃ
長者山新羅神社



しんめいぐう
神明宮



がっせん
「さるかに合戦」をテーマにした
およそ70年前の山車



かぶき
歌舞伎をテーマにしたおよそ70年前の山車



だし じゅういちにちまじりゅうぐみ
今の山車 (十一日町龍組)



かじちようつけまつりわかものれん だし
鍛冶町附祭若者連の山車

3 今の山車

山車を作る人たちは、かんきやくを喜ばせよう、他の山車組
 よりりっぱな山車を作ろうと、どんどん大きな山車を作るよう

になりました。今は、大きな山車だと、高さ10メー
 トル、幅8メートルになり
 ます。さらに、山車を高く
 上げたり人形を動かしたり
 するしかけを付けて、山車
 をいきいきと見せる工夫も
 しています。



しろしたまつり だし
城下附祭の山車

4 だし 山車を作りかえる

(じゅうろくにちまちだしくみ ばあい
十六日町山車組の場合)

かく だし ぐみ
各山車組では、やく半年間、
だし ごと や ち あつ
山車小屋に地いきの人が集まって
だ し
一つの山車を作り上げます。

だ し え 【山車絵】

だ し き
山車のテーマを決めて、
だ し え
山車絵をかきます。



だ し え
山車絵

だ し ほんたい 【山車本体・しかけ】

だ し だ し
山車のかべや土台、山車を
うご
動かすしかけを作ります。



人形の顔をかく



いた だ し
板などで山車をくみだてる

【人形・いしょう】

人形や、人形に^き着せる
いしょうを作ります。

この絵をもとに
だ し
山車^{だ し}が作られるんだね。
かんせい
完成した山車と
見くらべてみよう。



カッターなどではっぼうスチロールをけずる

【かざり】

だ し つ
山車のかべに付けるかざりや
くも いわ
雲や岩などは、ダンボールなど
ざいりょう
さまざまな材料で作ります。



できあがった人形を山車にのせる

さんしゃたいさい
三社大祭のように、地いきの
だ し
人が手作りで山車を作りかえる
ところ ぜんこく
所は、全国ではあまり多くあり
ません。

どうぶつ 【動物など】

どうぶつ
動物などは、はっぼうスチロール
をけずって作ります。



お
ダンボールを折りまげて
いわ かたち
岩の形にする

【組み立て】

できあがった人形やかざりなど
だ し
を山車にのせます。



かんせい
完成!!



5 はちのへさんしゃたいさい ぎょうれつ 八戸三社大祭の行列

さんしゃたいさい ぎょうれつ
三社大祭の行列の長さは、およそ 2.7 キロメートル
もあります。行列には山車のほかに、神楽や虎舞など
きょうどげいのう つ むしや み こ かみさま
の郷土芸能や、よろいを着けた武者や巫女という神様
さまさま もの
につかえる女の人など様々な出し物があります。どの
写真か、わかりますか。

しゅるい もの まつ ぜん
このようにたくさんの種類の出し物がある祭りは、全
こく
国でもめずらしいです。



まつ お祭りを うけつぐ!

6 はやし れんしゅう お囃子の練習

はやし れんしゅう みらい
お囃子の練習は、未来
さんしゃたいさい う
の三社大祭を受けつぐ子
どもたちを育てる場です。
子どもたちはお囃子を通
してまつ お祭りを学び、おとな
になると山車作りなどをす
るようになります。



はやし れんしゅう
お囃子の練習は7月か
から各山車組で行われます。
小学生以下が小太鼓を、
中学生以上が笛や大太鼓
をたんとします。練習は、
山車小屋や消防団の人た
ちが集まる所などで、夕方
から行われます。

むかし はやし
昔はお囃子ができるの
は山車組がある町内の子
どもだけでしたが、今はど
この町内の子どもでも参
加できるようになりました。

ボクも
れんしゅう
練習して
カッコよく
たいこ
太鼓を
たたくぞ!



7 きょうどげいのう 郷土芸能

さんしゃたいさい かぐら
三社大祭には、神楽や
とらまい こまおどり
虎舞、駒踊など古くから
地いきに伝わる郷土芸能
が参加しています。

きょうどげいのう
郷土芸能でも、多くの
子どもたちがかつやくし



とらまい れんしゅう さ びしろとらまい
虎舞の練習(左比代虎舞)



赤いしがしら
大神楽(重地大神楽)



くろ う かぐら ほろりようかぐら
黒いしがしらを打ちならす神楽(法霊神楽)

ています。おとなや中学生、
高校生たちから教わって、
さんしゃたいさい えん
三社大祭で元気に演じて
います。みなさんもぜひ
さんか
参加してみてください。



馬を着けておどる
たかだてこまおどり
高館駒踊

8 まつ ささ 祭りを支える かどづ ～門付け～

さんしゃたいさいきかんちゅう
三社大祭期間中、家や
お店の玄関で、山車組の人は
木遣り音頭とよばれるめで
たい歌を歌ったり、郷土
芸能の人は悪いことがおき
ないようにするためのおど
りをおどったりします。

家やお店の人は、お礼の
気持ちをこめてお祝い(お
金)をわたします。このよう
にして、家やお店をまわり、

かどづ 門付けで
きや おんど うた
木遣り音頭を歌う
だしくみ
山車組の人たち

いわ かどづ
お祝いをもらうことを「門付
け」といいます。このお祝い
は、山車の材料など、お祭
りに必要なものを買うときに
使われます。

さんしゃたいさい
このように三社大祭は、
地いきの人たちの支えに
よって、毎年せいだいに
行なわれています。



かどづ 門付けをする、郷土芸能の人たち

9 ぜん こく だ し まつ 全国の山車祭り

だし まつ きょうと ぎおんまつり ぜんこく
山車が出るお祭りは、京都の祇園祭から全国へ
広まりました。ヤマ・ホコ・カサ・ヤタイ・ダシ・
ダンジリなど地いきによって呼び方や形は違いますが、
全国におよそ 1500 もあるといわれます。

そのうち、37 のお祭りが、これからも長く、
守り続けていかなければならない、世界の
中でも大切な宝として、選ばれています。
八戸三社大祭も、その一つです。

ぜんこく
全国には、
いろんな形の
山車が
あるんだね。



かくのだてまつ
角館祭りの
やま行事



きょうと ぎ おんまつり やまほこぎょうじ
京都祇園祭の山鉾行事



しんじょう やたい ぎょうじ
新庄まつりの山車行事



せかい たから えら
世界に選ばれた
お祭りのあるところ



やつしろみょうけんさい
八代妙見祭の
しんこう ぎょうじ
神幸行事

※祭礼行事の名称は、ユネスコ登録の表記による。

10 だ し ぐみ 山車組が力をあわせて くみ た しき だ し 作った組立て式山車

だ し 山車は、それぞれの地いきの人が山車小屋にあつ
しん がた ます。ところが、新型コロナウイルス感染症の流行によって三
しゃたいさい ちゅうし 社大祭が中止となり、山車作りもできなくなりました。このまま
だ し では山車を作るぎじゅつがとだえてしまいます。そこで、すべ
だ し ぐみ あ ての山車組が力を合わせて、1台の山車を作りました。



てつ 鉄でつくったほねぐみに、いた 板などをつけて
くみたて 組み立てる



はっぱうすスチロールでつくった「りゅう」を
だ し 山車へのせる



にんぎょう 人形の「いしょう」をつくる



にんぎょう 人形の「いしょう」や「よろい」をきせる



だ し 山車のうしろ側にかざりをつける



くみ た しき だ し かんせいした組立て式山車

さんしゃたいさい 三社大祭にさんかする山車組が、だ し ぐみ 地いきをとびこえて、きょう
くみ た しき だ し りよくして作った組立て式山車は、小さくぶんかいして、いろい
はこ ろなところへ運べるように工夫されています。

くみ た しき だ し こうしてかんせいした組立て式山車は、ちゅうしんち 八戸市の中心地を
ある とくべつに歩きました。

11 だしにんぎょう しょうりされた山車人形

げんざい さんしゃたいさい
現在、三社大祭には、およそ200年前の江戸時代に作られ
だ し にんぎょう たけ だ しんげん たいこうぼう まつ
た山車人形「武田信玄」と「太公望」が、1年こうたいでお祭り
ぎょうれつ とうじょう
の行列に登場しています。

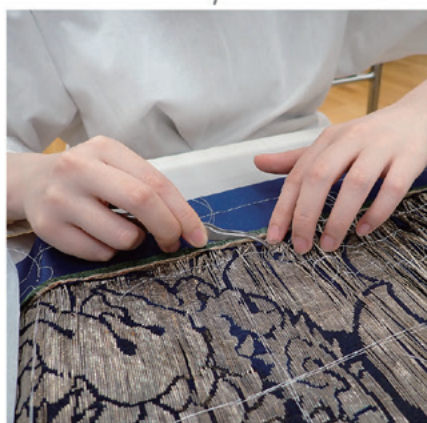
だ し にんぎょう い しょう
これらの山車人形は、長い間のうちに、衣装がやぶけたり、
うで
腕がこわれたり、かみの毛やひげがぬけたりして、ぼろぼろに
なっていました。

え ど じ だい げんざい ち ひと たいせつ まも
江戸時代から現在まで、地いきの人たちが大切に守ってき
だ し にんぎょう まつ ぎょうれつ とうじょう
た2つの山車人形は、このままではお祭りの行列に登場するこ
とができなくなってしまう。

ち たから ぶん か ざい のこ まつ
そこで、地いきの宝（文化財）として残し、これからもお祭り
ぎょうれつ とうじょう
の行列に登場させていくために、6年間かけてしょうりしました。



しょうりの前にクリーニングをして、
たけ だ しんげん じん ぼおり
よごれをおとす（武田信玄の陣羽織）



ぼろぼろになっていた銀色の糸を、
ざんいろ
1本ずつもともどす（太公望の腰巻）



たけ だ しんげん ひとみ たいこうぼう
武田信玄の瞳や、太公望のくつなど、もとの色を
かくにんしながら直していく



やぶけてぼろぼ
ろになっていた衣
しょう
装から、こわれて
いた腕や足、色が
うで あし いろ
とれていた顔やく
かお
つの部分、人形が
ぶ ぶん にんぎょう
体につける道具ま
どう ぐ
で、全体的にしょう
ぜんたいてき
りしました。



たけ だ しんげん
しょうりがおわった武田信玄



たいこうぼう
しょうりがおわった太公望

だ し にんぎょう おがみじんじゃ うじ こ ひと まつ
この2つの山車人形は、霨神社の氏子の人たちが、お祭りの
ぎょうれつ とうじょう
行列に登場させるためにじゅんびをしています。お祭りが終わっ
まつ お
たあとはいないにかたづけています。

12 せかい たから はちのへさんしゃたいさい 世界の宝 八戸三社大祭

おな ち 同じ地いきでくらし^{べつべつ}ていても、ふだんは別々の
しごと 仕事をしたり学校に^{かよ}通ったりしているため、近所
す にどのような人が住んでいるか、わからないこと
が多くなっています。

しかし、はちのへさんしゃたいさい 八戸三社大祭のための^{れん}じゅんぴや練
しゅう とお 習を通して、さまざまな人が交流して、おたがい
かお し の顔を知ることができ、安心して^{あんしん}くらせるようにな
ります。

このように、長い間、地いきの
なが あいだ ち 人たちのきずなを^{ふか やくめ}深める役目を
はたしてきたこと^{はちのへさんしゃ}によって、八戸三社
たいさい 大祭は、世界の^{せかい}みんなで^{まも}守るべき
たいせつ たから大切な宝として^{はちのへさんしゃたいさい}みとめられたのです。



ですから、三社大祭を見に行ったり、参加し
さんしゃたいさい たりして、みんなの力を^{ちから あ}合わせて、「世界の宝^{せかい たから}
はちのへさんしゃたいさい 八戸三社大祭」を守り、もりあげていきましょう。

小学校

なまえ

年 組

はちのへはっけん 八戸発見ブック せかい たから はちのへさんしゃたいさい 世界の宝!! 八戸三社大祭

■発行日／令和 8 年 6 月 30 日

■編集・発行

八戸市教育委員会 〒031-8686 八戸市内丸一丁目 1-1

■協力者・画像提供者

八戸市小学校社会科教育研究会元会長 木津 正博、
八戸三社大祭山車祭り行事保存会、はちのへ山車振興会、全国山・鉦・屋台保存連合会、
八戸市博物館、葛坂 真(八戸ノ本室)、十六日町山車組、松橋 勝、永井 大介、
学校法人女子美術大学染織文化資源研究所、有限会社古文化財保存修復研究所

■デザイン・印刷

大東印刷株式会社 〒039-1103 八戸市長苗代 1 丁目 1-3